

精米年月旬表示への切替えに、 御理解・御協力をお願いします。

精米商品は、これまで「精米年月日」を表示することとされていましたが、令和2年3月27日から、「年月旬（上旬／中旬／下旬）」表示もできるようになりました。

精米年月旬表示への切替えは、食品ロスの削減のほか、災害などへの対応能力の向上など効果が期待されます。また、SDGsの目指す「すべての人々が豊かで平和に暮らし続けられる社会」の達成にもつながるものと期待されます。

年月旬表示導入により期待される効果

☑ 食品ロスの削減

これまで、十分に食用可能であるにもかかわらず、精米年月日が古いという理由だけで廃棄又は販売外とされていた商品のロスの削減が期待されます。

☑ 管理コストの削減

商品の管理単位が少なくなることで、品出し作業や店頭の商品管理などに要する管理コストの削減が期待されます。

例) 1商品あたりの管理単位数

365 (年月日表示) → 36 (年月旬表示)

☑ 災害などへの対応能力の向上

災害発生時などの物流混乱時でも在庫調整をしやすくなることで、対応能力の向上が期待されます。

☑ 環境負荷の低減

商品の管理単位が少なくなることで、配送回数の削減や積載率が向上すれば、排気ガスの排出抑制が期待されます。

実際に年月旬表示への切替えが始まっています！

小売事業者であるA社は、米卸売事業者であるB社の令和元年産の家庭用精米商品について、令和2年6月から、順次、年月旬表示を導入。

A社（小売業）

- ・ 毎日行う品出し作業や店頭在庫の日付ごとの並び替えの負担が少なくなった。
- ・ 精米から一定期間を経た商品の撤去が少なくなった。



B社（米卸売業）

- ・ 計画的な精米や精米在庫の保有が可能になり、発注への柔軟な対応が可能になった。
- ・ 働き方改革の促進：1回あたりの精米量が増加することで精米回数が減少し、土日祝日に休みが取りやすくなった。
- ・ 精米工場設備のメンテナンスの余裕がとれるようになった。



※ 関係事業者からの聞き取りに基づき、農林水産省において作成

SDGs × 食品産業

食品ロスの削減や環境負荷の低減は、国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標12（つくる責任 つかう責任）、13（気候変動に具体的な対策を）などにも位置づけられています。

